

武蔵野市自殺総合対策計画策定委員会（第3回）

会議要録

日時：平成30年11月8日（木）
午後6時30分～8時00分
場所：市役所東棟 802会議室

次 第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 武蔵野市自殺総合対策計画中間のまとめ（案）について
 - (2) 武蔵野市自殺総合対策計画サブタイトルについて
3. その他

配付資料

- ・資料1 武蔵野市自殺総合対策計画中間のまとめ（案）
- ・資料2 武蔵野市自殺総合対策計画サブタイトルについて

○当日机上配付資料○

- ・参考資料：ネコのように生きる。（チラシ）

出席者（敬称略）

- 委員長・・・福島喜代子（ルーテル学院大学総合人間学部教授）
副委員長・・・澁谷智子（成蹊大学文学部現代社会学科准教授）
委員・・・大垣和子（アクセスポイント吉祥寺ケアプラン）
 栖雲勅子（公募市民）
 谷口拓（警視庁武蔵野警察署生活安全課長）
 寺田忠正（東京消防庁武蔵野消防署警防課長）
 刀根武史（武蔵野市立第五中学校校長）
 日高津多子（東京都多摩府中保健所地域保健推進担当課長）
 藤原正光（株式会社武蔵境自動車教習所地域交流室長）
 森新太郎（特定非営利活動法人ミュー統括施設長）

以上名簿順

※欠席：佐藤清佳（武蔵野市民生児童委員協議会第二地区会長）
 那須一郎（一般社団法人武蔵野市医師会理事）

事務局・・・森安健康福祉部長、一ノ関健康課長、真柳障害者福祉課長

1. 開会

○事務局より配付資料の確認

2. 議事

(1) 武蔵野市自殺総合対策計画中間のまとめ(案)について

○本日の傍聴者1名

○事務局より資料1「武蔵野市自殺総合対策計画中間のまとめ(案)について」の説明

事務局・・・今回の会議資料を送付した際に、皆さんにいくつかの課題に対して意見をいただけるようお願いしていた。まず28ページ、基本施策4「生きることの促進要因への支援」というタイトルがわかりにくいため、何か良いタイトル案があるかどうか。55ページの「5 達成目標」では、「自殺死亡者数を19.7人以下に減少」と記載しているが、人数は記載せず自殺率だけで良いのではないか、「誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」ということで良いのではないかという意見もあった。まずは、この2点について議論をお願いしたい。

28ページに戻って、ページ上段の「【国】基本施策」の一つである基本施策5「児童生徒のSOSの出し方に関する教育」は、下段の「【市】基本施策」では基本施策4「生きることの促進要因への支援」に含めている。ただ、ここでその文言が見えなくなるのはどうなのかという意見がある。「SOSの出し方に関する教育」は28ページの本文内に記述しているが、この見せ方で良いか、もしくは見せないとすれば、国の基本施策もあえて記載しない方が良いかということも議論をお願いしたい。

また、前回の委員会で、皆さんから計画書は、自分に関わりのあるところを見るため、ライフステージごとの構成の方が見やすいという意見をいただいた。事務局でそれらも含めて検討したが、ライフステージごとにすると、紙ベースの計画書ではどうしても「再掲」が多くなってしまう。従って、見やすく構成するには基本施策ごとをベースに、その中でライフステージを入れていくという構成に至った。この構成についてもあわせて意見を伺いたい。

委員長・・・それでは皆さんから意見を伺っていく。

委員・・・基本施策4「生きることの促進要因への支援」は、確かにわかりやすい名称にする必要がある。例えば29ページ、下の本文にある「誰もがいきいきと安心して住み続けられる 支え合いのまち」はとても良い言葉であるし、サブタイトルにも使えるフレーズだと思う。

事務局・・・事務局としても「生きることの促進要因への支援」を、どう表現すればわかりやすく伝えられるかと頭を悩ませている。“生きることの阻害要因をなくして促進要因を増やす”ということが趣旨であるので、そこをうまく表現できるかどうか。

事務局・・・今、お褒めをいただいた「誰もがいきいきと安心して住み続けられる 支え合いのまち」は、「健康福祉総合計画」の基本目標をここにも表記したものである。

委員・・・何か良いフレーズを思いついているわけではないのだが、「生きることの促進要因

への支援」は40ページに例として3つ出ており、国の「児童生徒のSOSの出し方に関する教育」をかなり意識したものが並んでいるという印象を持つ。その他に「地域での通いの場の充実、活動への支援」や「生活困窮者に対する支援の強化」で経済的な支援、「救急医療機関等との連携」ということも含めてとなると、“生きるために必要な環境をつくっていく”ということが表現できると良い。

- 副委員長・・・これが良いといった積極的な案はないが、「生きることの促進要因への支援」と言ってしまうのはどうかと思う。今の意見のように環境を整えるという意味だと思う。これを個人に置き換えてみると、“困ったときにともに考えてくれる人がいる”というイメージだと思うが、それを表現できる言葉が思いつかない。“ともに考えてくれる”ということは、自殺を考えている人には適切なものだと思う。ただ、それは家族ではないかも知れないという面もあり、難しい。
- 事務局・・・それを表現するとしたら、「ともに支え合う環境づくりの支援」となりそうだが、そうすると今度は共生的な感が強くなってしまう。
- 副委員長・・・自殺を考える人たちは、支え合うという部分でそもそも無理だと感じている。支え合いができる人たちは行き場所がある。従って、個人ベースで考えたときに、誰かがいるというイメージだと考える。
- 委員・・・私も支援体制、環境、あるいは人などをつくっていくというイメージがあった。それらへとつながっていくための道づくりの印象を強く持つ。
- 委員・・・国と同じようなことをするのではなく、何か武蔵野市らしいものがないかと考え続けているが、今は思いつくものがない。
- 委員・・・私も思いつかないのだが、誰にでもわかりやすい表現があると良い。
- 委員・・・生活困窮者や自殺未遂者が本当に死に至らないのは、やはり死の恐怖が勝っているからである。特に希望がなくても、漠然と生きていくためであれば、私は生きていけると思う。そういう意味で希望をもって生きていけるために「生きることの促進要因への支援」という記載になっているのだと思う。
- 委員・・・皆さんの話を伺っていて、きれいな言葉で表すのは難しいのではないかと感じている。どのような人にその言葉を届けるか、あえて「生きることの阻害要因をなくす」とか、「生きることを閉ざさない」というように、逆の言い方も考えられるかも知れない。
- 委員・・・自殺する方は何かに追い込まれ、結果として行き処がなくなることが問題だと思う。おそらく誰にも相談できず、ひとりで悩みを抱えてしまう、そこへの働きかけがかなり難しい。そうした本当に追い込まれた人たちに対して、一般的に言うような“夢や生きる楽しさを見つける”という表現は妥当なのかと思うが、それでも、生きていけば楽しいこともあるということや、夢を持ってそこに向かうということが伝わるよう、うまく表現できると良い。
- 委員・・・少しでもわかりやすく伝わるのが大事だと皆さんの意見を聞いていて思った。そこで29ページの本文にあった「誰もがいきいきと安心して住み続けられる支え合いのまち」という記載から、「いきいき」「安心」「支え合い」の3つの言葉をピックアップして、「いきいきで安心 支え合いへの支援」とするのが個人的には良いのではないかと思う。

- 委員長・・・一方で、具体的な事業との整合性も必要であると思う。40、41ページにあげられている「生活困窮者に対する支援の強化」、「救急医療機関等との連携」や「障害児(者)施策における取組」などの事業は他とは違っているのだが、それらをあえて取りあげて、この項目内に位置付けている。再掲ではないそれらの事業が主なものというところ。その人が深く追い詰められたときに、自殺に追い込まれなくても済むような方向の下支えをするタイプの事業があげられているという印象である。こうしたものをどうタイトルでうまく表現すべきか。
- 委員・・・40ページの「生活困窮者に対する支援の強化」、最初の黒丸の「伴走型のサポートを実施」は、一緒に横に寄り添ってやっていくという意味のサポートであることだとすれば、“寄り添う”がキーワードになりそうだが、伴走型のサポートとはそういった意味で使っていると捉えて良いか。
- 事務局・・・おっしゃるとおりの意味である。
- 委員・・・そうすると、基本施策の3には「相談支援事業の充実」と明確に記載されているので、ここは相談した後も寄り添って支えていくという事業の考え方と連動したタイトルになるかと思うが、良い表現が思いつかない。
- 事務局・・・「寄り添い 支える取り組みへの支援」という感じか。
- 委員・・・そもそも促進要因とは何かと考えてしまうので、それを取って単純に「生きることへの支援」とすれば、よりわかりやすく、かつさまざまな広がりの中でつながっていくと考えられるのではないか。
- 委員長・・・40ページのページ上の網掛け枠にある「生きることの阻害要因」と「生きることの促進要因」の例はどこから引っ張ってきたものか。
- 事務局・・・国の自殺総合対策大綱からである。
- 事務局・・・委員の皆さんからもなかなか妙案が出ない。ただ、事務局でその後にとりまとめをして皆さんにまた提案するのもあまりよい方法ではない。これは中間のまとめなので、とりあえず基本施策4はこの記載のまま進め、その間に考えて修正するという方向ではどうか。皆さんから今あげていただいた「促進要因」を削除するとか、「寄り添う」、「伴走型」や「自殺に追い込まれないような社会づくり」などはカギとなる言葉だと思うので、本日のところはペンディングとさせていただき、その後再度検討することにしたいと考える。
- 皆さんにお諮りいただきたいことがもう1点ある。41ページの拡充マークの2つめ、「自死遺族の方を含め、死後の手続きを行う遺族の方に、行政手続きや分かち合いの会、相談先について、パンフレットなどを用いた情報提供を行っていきます。」であるが、内部の議論で自死遺族の方にとって、そうした支援が本当に必要なのかという声があった。事務的なことよりも、まずは心に寄り添うようなことがあるべきではないかという声もあって、そこも私どもとしてはお諮りを願いたい。
- 委員長・・・ここは、亡くなられた方本人に限らず、亡くなった方がおられたときに、その後の手続きや分かち合いの会などの両方を含めたかったのだろう。
- 事務局・・・「パンフレットなどを用いた」という記載は具体的すぎるかも知れない。おそらくこころのケアもあわせて必要となるので、そのために分かち合いの会やピアカウンセリングもあるのだと思う。そこで、例えば「パンフレットなどを用いた」を削除

して「情報提供を行っていきます」とした方が良いだろうか。

副委員長・・・それこそ「寄り添った情報提供を行っていきます」とすることで、多くの意味が込められるのではないか。

事務局・・・承知した。

委員長・・・それでは「生きることの促進要因への支援」は一度ペンディングにして、引き続き検討していくということにしたい。

事務局・・・国の基本施策に「児童生徒のSOSの出し方に関する教育」があげられている中、市では今回は「相談支援事業の充実」として、SOSの出し方を「生きることの促進要因への支援」に含めたことについてはどう考えるか。

委員長・・・SOSの出し方に関して教育をすることは、発想としてはあちこちでされているが、実はいくらSOSを出しても受け取る側がきちんと受け取れなければうまく機能しないと言われており、もともと国から示されたものには、対象が絞られた状態で出されているという特徴があった。今回の市の案は、国では別だての項目になっていたものを、今のところに入れた形となっている。児童・生徒に限らず、困った人がSOSを出すことを支援するのは大事なことであり、それは基本施策4「生きることの促進要因への支援」に含まれている。「生活困窮者に関する支援の強化」などがこの項目に含まれているのは、きっとそういうことなのだろうと思っている。

事務局・・・おっしゃるとおりで、国の基本施策の1から4に対し、基本施策5では具体的な教育などがあげられていることによりかなり違和感がある。ただ一方で、市の基本施策にそれが無いために、それほど重視していないと受け取られかねないため、そのバランスを取るのが難しい。そこで基本施策は、国の方は記載せず、市の方のみ記載をして、武蔵野市ではこれでいくのだと謳う方法もある思う。

委員・・・おそらく基本施策4で言うところのSOSをキャッチして適切な対応ができる人材というのは、36ページの基本施策2「自殺対策を支える人材の育成」の新規マークの2つめと連動すると思う。市役所や民生委員などのサポートする側の人材育成に限らず、市民の方にも「気づき」をしてもらって支えの担い手になってもらうための人材育成ということで、ここはまさに「生きることの促進要因への支援」のカギとなっていく。児童・生徒のSOSの出し方は、そのSOSにどう対応するかというところも含めてSOS教育となると思うが、それをどのように基本施策2と4とで整理していくか。

委員長・・・基本施策4は困っている本人がSOSを出せるようにということ、基本施策2は受け止める側のことなので、ここはうまく分けられている。あえて一緒にしなくても良いだろう。

委員・・・一緒にするわけではなく、連動した形が見えるような書きぶりであると良い。

事務局・・・それでは、国の基本施策の記載はなしにして、当市の考えを入れていくということ、それと基本施策2の新規マークの2つめは、SOSを受け止める人に対しても人材育成をしていくといった書きぶりに修正して、両方でサポートしていくという記載にしたい。

副委員長・・・そうすると、28ページの「(1)基本施策」の本文、「国では～」から「【国】基本施策」を含め、続く本文の「～例外ではありません。」までを掲載しないというこ

とか。

事務局・・・そのとおりである。

副委員長・・・確かにその方がなぜ市では国とは変えたのかという疑問も持たれることもないし、「生きることの促進要因への支援」の中で、SOSの出し方を考えるということがすっきりする。

委員長・・・他には何かあるか。

委員・・・基本施策1から5は理由があってこの順番に並んでいるのか。基本施策2が自殺対策を支える人材育成で、基本施策4がSOSを出せるということになると、順番としてつながっていた方が良いと思うがどうか。

委員長・・・人材の育成で相談支援事業が充実されて、そこで受け止めることができるという流れになっている。従って、ゲートキーパーの養成そのものはもちろん受け止める側の養成となるのだが、それを実際に受け止めるのは基本施策3「相談支援事業の充実」になるので、順番は特に問題ないだろう。

副委員長・・・先ほどの基本施策4「生きることの促進要因への支援」という名称の課題に戻るが、各ライフステージにおける危機は人それぞれ異なるかも知れないが、結局市としてはサポート事業が多いと思う。先ほど委員長が自殺に追い込まれなくても済むようにと言われていて、それを受けて伴走型のサポートの話も出てきた。それをタイトルでどのように適切に表現するかと考えると、「危機をやり過ごす」ということになるのではないかと思う。時間が流れることで、異なる局面が見えてくることもあると思う。

委員長・・・せっかくいただいたご提案であるが、「危機」としてしまうと、意味合い的にはかなり狭い感じになってしまうように思う。

私から2点、まず40、41ページなどにある新規マークや拡充マークは、ライフステージ別に入っているのであれば、左ページの方にもふられるはずだと思う。例えば40ページの「児童・生徒のSOSの出し方に関する教育」は、42ページのライフステージ別で新規マークがついているので、40ページの該当箇所の黒丸にも新規マークがふられると思う。

もう1点気になったのは、45ページのライフステージ別の一番下、「中高年」「高齢者」に向けて武蔵野商工会議所主催のセミナーなどが、「主要な施策と今後の方向性」の中に記載されているが、左側の44ページでそれが見られないのは何か理由があるのか。

事務局・・・基本的に、基本施策の左ページは全世代に関わるような範囲の広いものを出していて、右ページのライフステージ別の方は、各年代、あるいは特定の幅を持った年代をターゲットに行っているという記載である。従って、両方が必ずしもリンクするわけではない。「再掲」が続く形にならないよう、ある程度の範囲の世代に向けたものは左ページに記載し、対象者が一定程度狭まっているものは右ページのライフステージ別に記載したということである。そうしたことから、左右のページはリンクしていない部分があるが、ご指摘の武蔵野商工会議所主催のセミナーは「高齢者」に限らず「中高年」も範囲に含めるという記載である。

委員長・・・40ページで児童のことに特化しているのは目立たせたかったということか。

- 事務局・・・おっしゃるとおりであり、タイトルとしても目立つようにつけている。
また、今ご指摘のあった新規マークがついていないものは整合性をとる。
- 委員・・・先ほど基本施策1から5までは流れがあるという説明があった。そうすると、25ページの「計画の基本イメージ」の図はループ状になっているので、1から2、2から3、3から4、4から5と意識させるのであれば、それに合わせた図の工夫が必要だと思う。
- 委員長・・・そのように変えていただくと良いと思う。
- 委員・・・29ページの「推奨される重点パッケージ」の右、「※」印の説明は国の文章だと思うが、かなりわかりにくい。推奨パッケージは、その下の「地域の主な自殺の特徴」という表を直接見てもらった方がわかりやすい、もっと言えば「※」印の「推奨パッケージ」の説明は削除してしまって、「地域の主な自殺の特徴（特別集計（自殺日・住居地、H24～28合計）」の意味をもう少しわかりやすいタイトルを変えると良い。
- 事務局・・・承知した。確かに「推奨パッケージ」の説明文は不要だと思うので、表のタイトルをわかりやすく工夫する。
- 委員長・・・国の重点パッケージの話は29ページの本文3段落めからだが、ここも削除するということか。
- 事務局・・・削除するのは2つある「※」印の上の「※推奨パッケージ」説明のみで、本文は残すということである。
それと、55ページの「5 達成目標」の議論をお願いしたい。
- 事務局・・・国や都では3割減と言って具体的な人数を出している。2万人を1万6千人にといった大きな数で言うのは良いが、武蔵野市では19.7人以下に減少させると言ってしまうと、18人までなら目標達成なのかという話にも取られかねないとか、そもそも自殺ゼロのまちを目指すのではないのかという話も内部では出ている。約15万人の市民数の中でこの数字を出すと現実的で生々しい数字になってしまう。例えば自殺死亡率を「13.9以下」と記載するのは良いとしても、人数まで記載する必要があるかどうか、皆さんにご協議いただきたい。
- 副委員長・・・私も結果が18人であった場合はどうなのかとずっと気になっていた。但し、「自殺死亡率を13.9以下」とすると、自殺死亡率の意味がわからない人もいると思うので、その説明はつけた方が良い。
- 事務局・・・今は図表3-4の下に注意書きで「自殺死亡率は人口10万人対比」と記載しているが、これをもう少しわかりやすくして、ページの上部の方に書くのが適当かも知れない。
- 委員長・・・もし人数を残すとしても、“人”の話なので、小数点以下は表記しない方が良い。
- 事務局・・・実は16ページの第2章中表紙の裏に、自殺死亡率の注意書きを入れているのだが、該当のページにその説明がないとわかりにくいので、見やすくなるよう工夫する。
- 委員長・・・人数を記載しない方が良い気もするが、10万人あたりの数字だけがあってもイメージとしてはつかみにくい。55ページの図表3-4はこのまま「参照」という形で、上の網掛け枠内を「19人以下」にして、一人でもさらに低いところを目指すというようにした方が良いかも知れない。

- 委員・・・私も人数は載せない方が良いと思う。事前に資料を拝見した際に都や国と比較するとあまりに現実的な人数に生々しさや怖さを感じた。また、先ほどもあったが、自殺者数ゼロを目指すという話の中で、19人という数字が残っていることが気になった。
- 委員・・・私としてはわかりにくいと言うか、わからない。自殺死亡率の説明を見やすい場所に記載するのは当然として、市のスタンスとしては、限りなく自殺死亡者数ゼロを目指していくというのは当然あると思う。その一方で実際の現況を示すという意味では、19人という人数を載せるのもやむなしと思える。自殺死亡率だけだと、どのようにすれば13.9以下になるかということが見えないため、目標として掲げられても住民にとっては何も考えようがないと思えた。何か自殺死亡率以外の数字の見せ方があると良いと思う。
- それと図表3-4の一番下の「平均」という記載であるが、これは減少の度合いの平均を示していると思うが、少しわかりづらい。
- 委員長・・・その「平均」は当初の基準値から減少させていくので、「減少率」とするべきだろう。また、PDCAサイクルを明確にするためには、目標値は検証する際にわかりやすい方が良いが、それは自殺率で数字を出せば済むことなので、人数まで出すべきかどうか。
- それと気になるのは、17ページの「1 自殺者数の推移」で、武蔵野市では2010年に一度自殺者数13人という数値となっている。その実績があるにも関わらず「19.7人以下」という目標設定は適切と言えるか。
- 事務局・・・確かに19人以下を目指すを書いて、6年後の検証で18人だった場合、目標達成したと果たして言えるだろうかとの疑問に思う。但し、検証する上で数値目標が必要ということであれば、自殺死亡率をきちんと説明して、目標とする自殺死亡率に近づけるよう尽力していくという書き方が計画書としては妥当かと思う。国や都に倣って書いてはいるが、私どもとしては、誰も自殺に追い込まれることのない武蔵野市を目指していきたいというのが本当の想いである。
- 委員長・・・それでは人数の記載はやめて自殺死亡率のみ記載ということにする。その方向で中間まとめを出すのが、引き続き皆さんからも意見もいただくようにする。
- 副委員長・・・確認だが55ページの図表3-4は残し、上の網かけ大枠を「自殺死亡率を13.9以下(10万人あたり)」とするといった認識で良いか。
- 事務局・・・達成目標の数字は自殺死亡率にするが、イメージがしにくいという意見もあったことから、数字としては出しておきたいので図表3-4は「参考」として残しておく。但し「平均」は「減少率」に訂正する。
- 副委員長・・・それはかなり良いと思う。表の平成34年から平成36年(2022~2024)の部分はすべて赤色で記載するぐらい目立たせても良いと思う。その掲げる目標として、18人までなら達成といったイメージが生じない書きぶりにするということで良いと思う。
- 委員・・・55ページの「5 達成目標」で、本文を見ると国では「平成38(2006)年までに、自殺死亡率を平成27(2015)年に比べ、30%以上減少させる」と記載されているのだが、この自殺死亡率「30%以上減少させる」という表記のあと、下の枠内の「自殺死亡率を13.9以下」という表記がくるため、ここで説明を加えたとしても、ペー

ジを上から下へと見ていくと、その30%に対して、どうも13.9は“13.9%”と見えてしまう。これはまったく違うものであるのに、この書き方ではそう感じてしまったのだがどうか。

委員・・・そのように読み取られることがないように、自殺死亡率をわかりやすく説明するというのが事務局の回答であった。国の「平成27（2015）年に比べ、30%以上減少」という表現は何度か読んで、ようやく意味が理解できる。最初に30%というインパクトのある数字が出ているのに、下の枠内では「自殺死亡率13.9以下」となっているので、理解しにくいということにもなりかねない。そういうわけで国の説明の部分をもっとわかりやすくできないかと思う。加えて、平成27（2015）年を軸にして比較するという図柄でもあると良い。

事務局・・・例えば55ページの本文の最初の段落に続けて、「武蔵野市の現時点での平成27（2015）年時点の自殺者死亡者数は〇人です。」として、「30%以上削減するというのはこの数字です。但し、この6年間ではなかなか難しいかも知れないので13.7にいたします。」という説明があるとわかりやすいかも知れない。

委員長・・・国の計画期間は10年間、今回の市の計画は6年間と期間も異なるので余計複雑になっている。それと1年ごとの結果で一喜一憂する必要もないので、素直に「平成36（2024）年は〇人」あるいは「（〇. 〇人）にする」とすればわかりやすいのだが、6年先というのは現実的ではない。せめて3年間平均の方が現実的であり、かつ実地的なので55ページのような表記になっている。わかりにくい部分については、書きぶりを工夫していただきたい。

事務局・・・承知した。

（2）武蔵野市自殺総合対策計画サブタイトルについて

○事務局より資料2「武蔵野市自殺総合対策計画サブタイトルについて」の説明

委員長・・・前回もサブタイトルの議論はいただいているがどうか。

委員・・・私は「むさしの」という言葉が入っている「こころ・いのち 支え合う まち むさしの」が良いと思う。

委員・・・私も同様に「むさしの」と入っているものが郷土愛を感じられて良い。

委員長・・・市の「健康福祉総合計画」とも共通点が見られるので、「こころ・いのち 支え合う まち むさしの」でどうだろうか。

（委員からの異議はなし）

委員長・・・よろしいか。それではこれで中間のまとめを出す、皆さんからも引き続き意見をいただくということにしたい。

最後に全体を通じて何か意見や質問はあるか。

副委員長・・・今の「こころ・いのち 支え合う まち むさしの」であるが、「支え合う」と「まち」の間にスペースが入っているのは何か意図があつてのことか。

事務局・・・キーワードをつなげただけのことで特に意図はない。「支え合うまち」とする。

3. その他

- 委員長・・・その他、事務局から連絡事項等があればお願いしたい。
- 事務局・・・難しい課題を議論いただき感謝する。今回の議論をもとに議会に報告しその後パブリックコメントを実施していきたい。本日事務局から議論いただきたい題目を投げかけたが、それ以外で何か言い足りないことがあれば、また意見シートに記載していただきたい。
- 事務局・・・本日配付したパンフレット「ネコのように生きる。」であるが、精神保健福祉講演会ということで、11月18日（日）武蔵野プレイスの4階フォーラムで実施される。講師は原昌平様、読売新聞大阪本社の編集員で精神保健福祉士でもある方である。NPO法人ミューで申し込み、問い合わせ等を受けていただいている。時間の許す方はぜひお越しいただきたい。また、配付先がある方はお持ち帰りできるようチラシも用意している。
- 事務局・・・次回の日程であるが、次回の第4回が最終となる。年明け1月29日（火）、時間は18時30分から、場所は西棟の811会議室で開催し、最終案について議論をいただくことになる。また、議事録案は早めに配付して意見をいただく予定である。
- 委員・・・最後に私から情報提供であるが、吉祥寺のCOCOMARU THEATER（ココマルシアター）という小さな映画館で「いのちの深呼吸」という自殺予防をテーマにしたドキュメンタリー映画が11月17日（土）から2週間上映される。初日の11月17日（土）の10時の回の上映後、日本ゲートキーパー協会によるワークショップ、11月21日（水）は12時15分の回の上映後、武蔵野市とNPO法人ミューが協力して、武蔵野市がどのような活動をしているかというワークショップを行わせていただけることになっている。いずれもワークショップは2階のイベントスペースで行われるため、ワークショップのみの参加も可能である。興味のある方はぜひお越しいただきたい。

以上